

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

### 事業名 **新**ナンヤローネDX事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：[c21801@pref.gifu.lg.jp](mailto:c21801@pref.gifu.lg.jp)

#### 1 事業費 補正要求額 2,429 千円 (現計予算額 0 千円)

##### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その 他	県 債	一般 財源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,429	0	0	0	0	0	0	0	2,429
決定額									

#### 2 要求内容

##### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

日比野克彦を館長として迎え、平成28年度からスタートした「ナンヤローネプロジェクト」では、いつでも誰でも身近にアートを楽しむことができる新たな事業を次々に創出し、社会におけるアートの役割を問い続けてきた。

そして、コロナ禍において美術館が臨時休館となり、来館しなくてもアートを楽しめる取組みの開発が新たに始まり、その中で「ナンヤローネプロジェクト@オンライン」が誕生し、オンラインを活用して美を楽しむことができる様々なコンテンツが立ち上がった。

コロナ禍における「新しい生活様式」の中に美術館の存在を強く意識させ、ナンヤローネプロジェクトの更なる拡充を図るには、オンライン事業の積極的な展開が不可欠であるが、当館が保有するデバイスだけでは事業の拡充が困難な状況であり、デジタル環境の整備が必要となる。

また、現状では、視覚障がい者に比べ聴覚障がい者への情報保障が不十分な状況であり、アフターコロナを見据え、聴覚障がい者のアクセシビリティの向上に向けた取り組みが必要となる。

##### (2) 事業内容

コロナ禍における「新しい生活様式」の中に美術館の存在を強く意識させ、ナンヤローネプロジェクトの更なる拡充を図るには、デジタル環境を整備し、デジタルコンテンツの効果的な普及を進める必要がある。

その上で、以下の事業を精力的に展開していく。

○AR や VR を活用したコレクション作品の紹介と教育普及

スマホやタブレットで AR や VR を使って当館コレクションを取り込み、撮影して作品鑑賞を楽しめるような教育普及イベントを開発する。

○YouTube 動画配信やインスタライブを活用した作品鑑賞

企画展会場の空間や展示作品を学芸員が撮影しながら解説したり、視聴者からの質問を受けながら対話的な鑑賞を行う。

○作家と学芸員や教育機関と教育普及係とのオンラインミーティング

作家と学芸員がオンライン対談をしている様子を配信したり、教育機関でオンライン出前授業を展開したりすることで、アートを楽しむ機会を提供する。

○聴覚障がい者のアクセシビリティの向上

音声を文字表示するアプリケーション、専用機材の導入や手話による美術館案内動画、聴覚障がい者への接遇研修やコミュニケーションツールの開発を行う。これにより、アフターコロナを見据えた聴覚障がい者への情報保障と美術館アクセシビリティ向上を図る。

○アートコミュニケーター事業での活用

デジタル機器を整備することにより、研修を充実させるだけでなく、映像、音声ドラマ、ラジオ、ライブ配信など多様な自主企画の実施につなげる。

### (3) 県負担・補助率の考え方

県が設置運営する施設であるため県の経費負担は妥当

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	(千円)	事業内容の詳細
報償費	192	
旅費	185	
需用費	498	消耗品費 498 千円
役務費	30	通信料 30 千円
委託料	520	
その他	1,004	備品購入費 793 千円 使用料及び手数料 211 千円
合計	2,429	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 事業主体及びその妥当性

県民が芸術文化に触れ、身近に親しむことを通じて、文化的な感性を高めていく機会に資するものとして、県の関与が妥当である。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 コロナ禍におけるナンヤローネプロジェクトの更なる推進を通じて、幼児から一般まですべての県民の文化振興に寄与する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

開催の場所、時期、内容によって、参加者数等が異なるため、明確な指標を設定することができない。

### （前年度の取組）

### （前年度の成果）

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い	
(評価)  ○	コロナ禍において、美術館から自宅で美術や文化活動に触れられる機会を提供することが求められており、本事業は県の関与が妥当である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある	
(評価)	

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 参加者のニーズが多様化する中で、リピーターの要望に応えながら新しい参加者の取り込みが必要である。内容の充実と効果的な広報活動が課題である。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか コロナ終息後もオンラインを活用して美を楽しむことができるコンテンツの提供を行い、新しい美術館の在り方を提案していく。
---